

○ 「補装具費支給事務取扱指針について」の制定について（平成 30 年 3 月 23 日障発 0323 第 31 号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）

別紙「補装具費支給事務取扱指針」新旧対照表（傍線の部分は改正部分）

改正	現行
<p>別紙</p> <p>補装具費支給事務取扱指針</p> <p>第 1 （略）</p> <p>第 2 具体的事項</p> <p>1 補装具の種目、購入等に要する費用の額の算定等に関する基準の運用について</p> <p>（１）～（５） （略）</p> <p>（６）耐用年数の取扱いについて</p> <p>耐用年数は、通常の装着等状態において当該補装具が修理不能となるまでの予想年数が示されたものであり、補装具費の支給を受けた<u>身体障害者・児の身体状況や使用状況によって実耐用年数が異なるものである。このため、再支給や修理の際には告示に掲げる耐用年数を一律に適用することなく、以下の具体例を参考に、個々の実情に沿った対応が行われるよう十分配慮すること。</u></p> <p><u>【適切な事例】</u></p> <p><u>・耐用年数に達していない補装具が修理不能になったので、再支給の決定をした。</u></p> <p><u>・耐用年数を経過している補装具について、修理可能との見積もりであったので、修理の支給決定をした。</u></p> <p>なお、災害等本人の責任に拠らない事情により亡失・毀損した場合は、新たに必要と認める補装具費を支給することができること。</p> <p>また、骨格構造義肢については、必要に応じて部品の交換を行うことにより長期間の使用が可能であることから、耐用年数を規定していないところであるが、部品の交換のみによっては、その後の適正な使用が真に困難な場合又は部品の交</p>	<p>別紙</p> <p>補装具費支給事務取扱指針</p> <p>第 1 （略）</p> <p>第 2 具体的事項</p> <p>1 補装具の種目、購入等に要する費用の額の算定等に関する基準の運用について</p> <p>（１）～（５） （略）</p> <p>（６）耐用年数の取扱いについて</p> <p>耐用年数は、通常の装着等状態において当該補装具が修理不能となるまでの予想年数が示されたものであり、補装具費の支給を受けた<u>者の作業の種類又は障害の状況等によっては、その実耐用年数には相当の長短が予想されるので、再支給の際には実情に沿うよう十分配慮すること。</u></p> <p>なお、災害等本人の責任に拠らない事情により亡失・毀損した場合は、新たに必要と認める補装具費を支給することができること。</p> <p>また、骨格構造義肢については、必要に応じて部品の交換を行うことにより長期間の使用が可能であることから、耐用年数を規定していないところであるが、部品の交換のみによっては、その後の適正な使用が真に困難な場合又は部品の交</p>

換によることよりも再支給を行うことの方が真に合理的・効果的であると認められる場合にあっては、再支給を行って差し支えないこと。

(7) (略)

(8) 差額自己負担の取扱いについて

市町村は、補装具費基準告示と身体機能等を照らし、補装具に求められる機能を判断し、支給決定している。そのため、補装具費支給の必要性を認める補装具は、身体機能に適合するように製作され、種目、名称、型式、基本構造等が支給要件を満たすものとなっているが、使用者本人が希望するデザイン、素材等を選択することにより基準額を超えることとなる場合は、当該名称の補装具に係る基準額との差額を本人が負担することとして支給の対象とすることは、差し支えないこと。また、機能追加を差額自己負担で認めることは適切でないこと。

(9) (略)

(10) 修理または再支給する場合の対応について

修理や再支給の必要がある場合、市町村は他制度による適用の有無を確認した上で、補装具業者が定める保証期間や任意保険加入の有無について補装具業者や本人に聴取・確認等を行い、それらで対応が可能な場合は優先的に活用し、対応すること。

## 2 補装具費支給に係る事務処理について

(1) 支給の申請及び判定

① 身体障害者の補装具費支給

ア (略)

イ 判定

- 市町村は、当該申請が、義肢、装具、座位保持装置、補聴器、車椅子（オーダーメイド）、電動車椅子及び重度障害者用意思伝達装置の新規支給に係るものであるときには、更生相談所に対し、補装具費支給の可否につい

換によることよりも再支給を行うことの方が真に合理的・効果的であると認められる場合にあっては、再支給を行って差し支えないこと。

(7) (略)

(8) 差額自己負担の取扱いについて

補装具費支給の必要性を認める補装具について、その種目、名称、型式、基本構造等は支給要件を満たすものであるが、使用者本人が希望するデザイン、素材等を選択することにより基準額を超えることとなる場合は、当該名称の補装具に係る基準額との差額を本人が負担することとして支給の対象とすることは、差し支えないこと。

(9) (略)

(10) (新設)

## 2 補装具費支給に係る事務処理について

(1) 支給の申請及び判定

① 身体障害者の補装具費支給

ア (略)

イ 判定

- 市町村は、当該申請が、義肢、装具、座位保持装置、補聴器、車椅子（オーダーメイド）、電動車椅子及び重度障害者用意思伝達装置の新規支給に係るものであるときには、更生相談所に対し、補装具費支給の可否につい

て、様式例第3号の判定依頼書による判定依頼をするとともに、様式例第4号の判定通知書を身体障害者に送付すること。なお、当該申請が借受けに係るものである場合は、市町村は、借受けに関する申請者の意向をよく聴取した上で、様式例第2号の調査書、様式例第3号の判定依頼書に申請者の意向を記入する等により、更生相談所等との連携に努めること。

判定依頼を受けた更生相談所は、申請があった身体障害者について、

(ア) 義肢、装具、座位保持装置及び電動車椅子に係る申請の場合は、申請者の来所により、

(イ) 補聴器、車椅子（オーダーメイド）及び重度障害者用意思伝達装置に係る申請で、補装具費支給申請書等により判定できる場合は、当該申請書等により、

医学的判定を行い、身体障害者福祉法施行規則（昭和25年厚生省令第15号）別表第1号（別添様式1）の判定書により、判定結果を市町村に送付する。この場合、判定書には様式例第5号の補装具処方箋を添付することができる。

これらの種目については、再支給（軽微なものを除く。）に際しても、障害状況等に変化のある場合、身体障害者本人が処方内容の変更を希望する場合、又は、それまで使用していた補装具から性能等が変更されている場合等は、同様の判定を行うこと。

また、市町村が借受けの申請に基づく判定依頼をしていない場合においても、更生相談所が判定の過程で借受けによることが適当と判断できる場合は、借受けの必要性を判定し、想定される借受け期間、使用効果等を判定書に記載し、判定結果を市町村に送付すること。

なお、補装具のうち、告示別表の「種目」欄に掲げる補装具の対象者は、原則として、同表の「対象者」欄に掲げる者とする（身体障害児についても同様の取り扱いとする。）。

て、様式例第3号の判定依頼書による判定依頼をするとともに、様式例第4号の判定通知書を身体障害者に送付すること。なお、当該申請が借受けに係るものである場合は、市町村は、借受けに関する申請者の意向をよく聴取した上で、様式例第2号の調査書、様式例第3号の判定依頼書に申請者の意向を記入する等により、更生相談所等との連携に努めること。

判定依頼を受けた更生相談所は、申請があった身体障害者について、

(ア) 義肢、装具、座位保持装置及び電動車椅子に係る申請の場合は、申請者の来所により、

(イ) 補聴器、車椅子（オーダーメイド）及び重度障害者用意思伝達装置に係る申請で、補装具費支給申請書等により判定できる場合は、当該申請書等により、

医学的判定を行い、身体障害者福祉法施行規則（昭和25年厚生省令第15号）別表第1号（別添様式1）の判定書により、判定結果を市町村に送付する。この場合、判定書には様式例第5号の補装具処方箋を添付することができる。

これらの種目については、再支給（軽微なものを除く。）に際しても、障害状況等に変化のある場合、身体障害者本人が処方内容の変更を希望する場合、又は、それまで使用していた補装具から性能等が変更されている場合等は、同様の判定を行うこと。

また、市町村が借受けの申請に基づく判定依頼をしていない場合においても、更生相談所が判定の過程で借受けによることが適当と判断できる場合は、借受けの必要性を判定し、想定される借受け期間、使用効果等を判定書に記載し、判定結果を市町村に送付すること。

なお、補装具のうち、告示別表の「種目」欄に掲げる補装具の対象者は、原則として、同表の「対象者」欄に掲げる者とする（身体障害児についても同様の取り扱いとする。）。

○ 更生相談所は、新規申請者に係る判定を行うときは、できる限り切断その他の医療措置を行った医師と緊密な連絡を取り、判定に慎重を期すること。

○ 更生相談所の長は、補装具費の支給判定を行うに当たって、更生相談所に専任の医師又は適切な検査設備が置かれていないときは、身体障害者福祉法第15条第1項に基づく指定医又は指定自立支援医療機関において当該医療を主として担当する医師であって、（一社）日本専門医機構が認定した専門医及び所属医学会において認定されている専門医（医業、歯科医業若しくは助産師の業務又は病院、診療所若しくは助産所に関して広告することができる事項（平成19年厚生労働省告示第108号）第1条で定める項目を満たすものとして、厚生労働大臣に届出を行った団体に所属し、当該団体から医師の専門性に関する認定を受けた医師）に医学的判定を委嘱すること。

○ 市町村による決定

当該申請が、義眼、眼鏡（矯正用、遮光用、コンタクトレンズ、弱視用）、人工内耳（人工内耳用音声信号処理装置の修理に限る。）、車椅子（レディメイド）、歩行器、視覚障害者安全つえ及び歩行補助つえ（一本つえを除く。）に係るものであって、補装具費支給申請書等により判断できる場合は、更生相談所の判定を要せず、市町村が決定して差し支えないこと。

なお、身体障害者福祉法第15条第4項の規定に基づき交付を受けた身体障害者手帳（以下単に「身体障害者手帳」という。）によって当該申請に係る身体障害者が補装具の購入等を必要とする者であることを確認することができるときは、補装具費支給意見書を省略させることができるこ

○ 更生相談所は、新規申請者に係る判定を行うときは、できる限り切断その他の医療措置を行った医師と緊密な連絡を取り、判定に慎重を期すること。

○ 更生相談所の長は、補装具費の支給判定を行うに当たって、更生相談所に専任の医師又は適切な検査設備が置かれていないときは、身体障害者福祉法第15条第1項に基づく指定医又は指定自立支援医療機関において当該医療を主として担当する医師であって、（一社）日本専門医機構が認定した専門医及び所属医学会において認定されている専門医（医業、歯科医業若しくは助産師の業務又は病院、診療所若しくは助産所に関して広告することができる事項（平成19年厚生労働省告示第108号）第1条で定める項目を満たすものとして、厚生労働大臣に届出を行った団体に所属し、当該団体から医師の専門性に関する認定を受けた医師）に医学的判定を委嘱すること。

○ 市町村による決定

当該申請が、義眼、眼鏡（矯正用、遮光用、コンタクトレンズ、弱視用）、車椅子（レディメイド）、歩行器、盲人安全つえ及び歩行補助つえ（一本つえを除く。）に係るものであって、補装具費支給申請書等により判断できる場合は、更生相談所の判定を要せず、市町村が決定して差し支えないこと。

なお、身体障害者福祉法第15条第4項の規定に基づき交付を受けた身体障害者手帳（以下単に「身体障害者手帳」という。）によって当該申請に係る身体障害者が補装具の購入等を必要とする者であることを確認することができるときは、補装具費支給意見書を省略させることができるこ

と。

ただし、人工内耳音声信号処理装置の修理の場合は、補装具費支給意見書等により、補装具業者が修理可能であることや医療保険給付で行われる交換ではないこと、補装具業者の保証期間内でないこと等を確認すること。

○ 補装具費支給意見書の作成について

補装具費支給申請書等により更生相談所が判定する場合又は市町村が判断のうえ決定する場合は、具体的には、医師が作成する様式例第6号の補装具費支給意見書により判定することとなる。

なお、補装具費支給意見書を作成する医師は、それぞれ、以下の要件を満たす者とする。

- (ア) 補装具費支給意見書により更生相談所が判定する場合のこれを作成する医師は、別表2の①②③に掲げる医師であること。
- (イ) 補装具費支給意見書により市町村が判断のうえ決定する場合のこれを作成する医師は、別表2の④に掲げる医師であること。

- 更生相談所の長は、重度の障害を持つ者又は遠隔地に住む者等の利便を考慮する必要があるときは、別表2の④に掲げる医師に医学的判定を委嘱することができる。

- 身体障害者が、補装具費支給意見書を提出することに代えて、更生相談所において判定を受けることを希望する場合は、更生相談所において判定を行うこと。また、借受け期間が終了し、改めて購入又は借受けの支給決定を行う場合についても、補装具費支給意見書を提出することに代えて、更生相談所において判定を行うことができること。

と。

○ 補装具費支給意見書の作成について

補装具費支給申請書等により更生相談所が判定する場合又は市町村が判断のうえ決定する場合は、具体的には、医師が作成する様式例第6号の補装具費支給意見書により判定することとなる。

なお、補装具費支給意見書を作成する医師は、それぞれ、以下の要件を満たす者とする。

- (ア) 補装具費支給意見書により更生相談所が判定する場合のこれを作成する医師は、別表2の①②③に掲げる医師であること。
- (イ) 補装具費支給意見書により市町村が判断のうえ決定する場合のこれを作成する医師は、別表2の④に掲げる医師であること。

- 更生相談所の長は、重度の障害を持つ者又は遠隔地に住む者等の利便を考慮する必要があるときは、別表2の④に掲げる医師に医学的判定を委嘱することができる。

- 身体障害者が、補装具費支給意見書を提出することに代えて、更生相談所において判定を受けることを希望する場合は、更生相談所において判定を行うこと。また、借受け期間が終了し、改めて購入又は借受けの支給決定を行う場合についても、補装具費支給意見書を提出することに代えて、更生相談所において判定を行うことができること。

②・③ （略）

（２）支給の決定等

市町村は、（１）を経て購入又は修理に係る補装具費の支給を決定したときは、申請者に対し、速やかに、様式例第７号の補装具費支給決定通知書及び様式例第８号（１）の補装具費支給券を交付すること。補装具費支給事務及び給付の迅速化を図るため、市町村は、原則として申請書の提出があった日の翌日から起算して２週間以内に要否を決定するなど、支給事務に係る標準処理期間を定めるとし、その迅速な対応に努めるとともに、速やかに様式例第７号の補装具費支給決定通知書及び様式例第８号の補装具費支給券又は様式例第９号の却下決定通知書を発行し、申請者に交付すること。

また、初めて補装具費の支給申請をする場合、身体障害者手帳の交付申請と同時に行うことがあるが、手続きを並行して進める等、可能な限り速やかに支給決定を行うよう努めること。

借受けに係る補装具費の支給決定に当たっては、あわせて借受け期間についても決定すること。

また、借受け期間中は毎月補装具費を支給するが、支給決定の際は、借受けを行う一月目のみ、申請者に対し、速やかに、様式例第７号の補装具費支給決定通知書及び様式例第８号（１）から（３）までの補装具費支給券を交付すること。その際、様式例第８号（２）については、借受け期間の月数分を交付すること。支給決定の際に決定した借受け期間が終了するにあたっては、改めて更生相談所等において、購入が可能か、借受けを継続するかの必要性を判断することになるため、再度、（１）と同様に更生相談所による判定、支給決定の手続を行うこと。

借受けに係る補装具の交換までの期間については、最長１年を原則とする。ただし、市町村及び更生相談所が必要と判断すれば、概ね１年ごとに再度判定、支

②・③ （略）

（２）支給の決定等

市町村は、（１）を経て購入又は修理に係る補装具費の支給を決定したときは、申請者に対し、速やかに、様式例第７号の補装具費支給決定通知書及び様式例第８号（１）の補装具費支給券を交付すること。

借受けに係る補装具費の支給決定に当たっては、あわせて借受け期間についても決定すること。

また、借受け期間中は毎月補装具費を支給するが、支給決定の際は、借受けを行う一月目のみ、申請者に対し、速やかに、様式例第７号の補装具費支給決定通知書及び様式例第８号（１）から（３）までの補装具費支給券を交付すること。その際、様式例第８号（２）については、借受け期間の月数分を交付すること。支給決定の際に決定した借受け期間が終了するにあたっては、改めて更生相談所等において、購入が可能か、借受けを継続するかの必要性を判断することになるため、再度、（１）と同様に更生相談所による判定、支給決定の手続を行うこと。

借受けに係る補装具の交換までの期間については、最長１年を原則とする。ただし、市町村及び更生相談所が必要と判断すれば、概ね１年ごとに再度判定、支

給決定を行うことにより、交換までの期間を最長３年程度とすることができる。  
支給決定に当たっては、耐用年数や想定される使用期間等を踏まえ、借受けの必要性を判断すること。

市町村は、申請を却下することの決定をしたときは、様式例第９号の却下決定通知書により、理由を附して申請者に交付すること。

なお、補装具費の算定等については、別紙によるものとする。

(３)～(８) (略)

(削除)

３ (略)

#### ４ 代理受領について

補装具費の支給手順については、原則として２の(６)の取扱いによることとなるが、補装具費支給対象障害者等の利便を考慮し、市町村は、補装具費支給対象障害者等が補装具業者に支払うべき補装具の購入等に要した費用について、補装具費として補装具費支給対象障害者等に支給すべき額の限度において、補装具費支給対象障害者等に代わり、補装具業者に支払うことができること。

##### (１) 代理受領の前提条件

代理受領による補装具費の支払を行う場合には、次の取扱いによること。

- ① 市町村は、補装具費支給対象障害者等が希望する補装具業者との間での契約等に基づき、代理受領について合意形成を行うこと。

なお、補装具業者と契約等による取り決めを行う場合には、次の事項を盛り

給決定を行うことにより、交換までの期間を最長３年程度とすることができる。  
支給決定に当たっては、耐用年数や想定される使用期間等を踏まえ、借受けの必要性を判断すること。

市町村は、申請を却下することの決定をしたときは、様式例第９号の却下決定通知書により、理由を附して申請者に交付すること。

なお、補装具費の算定等については、別紙によるものとする。

(３)～(８) (略)

#### ３ 支給決定の時期等について

４ (略)

#### ５ 代理受領について

補装具費の支給手順については、原則として２の(６)の取扱いによることとなるが、補装具費支給対象障害者等の利便を考慮し、市町村は、補装具費支給対象障害者等が補装具業者に支払うべき補装具の購入等に要した費用について、補装具費として補装具費支給対象障害者等に支給すべき額の限度において、補装具費支給対象障害者等に代わり、補装具業者に支払うことができること。

##### (１) 代理受領の前提条件

代理受領による補装具費の支払を行う場合には、次の取扱いによることが望ましいこと。

- ① 補装具費支給対象障害者等が希望する補装具業者と、市町村との間で代理受領について、登録・契約等に基づき合意していること。

なお、補装具業者と登録・契約等により取り決めを行う場合には、次の事項



こむことが望ましいこと。

(以下略)

② (略)

(2) (略)

5 (略)

別添様式 (略)

別表 1

○補装具の対象者について

種目	名称	対象者
眼鏡	(略)	(略)
補聴器	(略)	(略)
<u>人工内耳</u>	<u>人工内耳用 音声信号処 理装置 (修 理)</u>	<u>人工内耳装用者のうち、医師が当該人工内耳用音声信 号処理装置の修理が必要であると判断している者。</u>
車椅子	(略)	(略)

別紙 (略)

別表 2 (略)

別添様式第 1 号～第 4 号 (略)

別紙様式例第 5 号 (1)

を盛りこむことが望ましいこと。

(以下略)

② (略)

(2) (略)

6 (略)

別添様式 (略)

別表 1

○補装具の対象者について

種目	名称	対象者
眼鏡	(略)	(略)
補聴器	(略)	(略)
(新設)	(新設)	(新設)
車椅子	(略)	(略)

別紙 (略)

別表 2 (略)

別添様式第 1 号～第 4 号 (略)

別紙様式例第 5 号 (1)



義手処方箋

氏 名			生年 月 日	年齢・性別 性別・年齢	年 月 日 ( ) 歳	性別	男・女
住 所					TEL		
医学的 所 見	疾患名	切断 部位	左 右	職業 (具体的に)			
	障害名	断端長	cm				
種目	肢構造・骨格構造	採型区分	Aー ( )	種目名称別コード			
名 称	1. 上腕義手 2. 肘義手 3. 肘義手 4. 前腕義手 5. 手義手 6. 手型義手 7. 手指義手	型 式 ・ 基 本 価 格	1. 装飾用 2. 作業用 3. 能動式 a. ハンド型手付 b. フック型手付 c. ハンド型長断端用 d. フック型長断端用 e. フック型長断端用	f. ハンド型中端用 g. フック型中端用 h. ハンド型短断端用 i. フック型短断端用 j. フック型短断端用	加 算	1. 肩甲骨関節切断用 2. 吸着式 3. 頸上懸垂式 4. スプリット式 5. チェックソケット a. シリコーン又はライナー b. 透明プラスチック	

【製作要素価格】

ソケット	1. アルミニウム 2. セルロイド 3. 皮革 4. 熱硬化性樹脂 5. 熱可塑性樹脂	イン ソ プ ア ー ト	1. 皮革 2. 軟性発泡樹脂 3. 皮革・軟性発泡樹脂	支 持 部	1. 装飾用能動式 a. 肘部 b. 上腕部 b. 前腕部	(1)アルミニウム、セルロイド (2)熱硬化性樹脂 (1)アルミニウム、セルロイド (2)熱硬化性樹脂
義 手 用 ハ ー ネ ス	1. 肘義手用 2. 上腕義手用 3. 前腕義手用	a. 胸郭バンド式肘ハーネス一式 b. 肘たすき一式 a. 胸郭バンド式上腕ハーネス一式 b. 肘たすき一式 c. 8字ハーネス一式 a. 胸郭バンド式前腕ハーネス一式 b. 8字ハーネス一式 c. 9字ハーネス一式 d. たわみ継手(一組) e. 前方支持バンド f. 上腕カフ(三頭筋パッド)		外 装	1. 肘部 2. 上腕部 3. 前腕部	a. 皮革 b. プラスチック c. 塗装 a. 皮革 b. プラスチック c. 塗装 a. 皮革 b. プラスチック c. 塗装

【完成用部品価格】

完 成 用 部 品			
特記事項、使用者の希望事項など記述すること (借受けの希望 有・無)			
処 方	年 月 日	仮合せ	年 月 日 良・不良
採 型	年 月 日	適合判定	年 月 日

別紙様式例第5号(2) (略)

別紙様式例第5号(3)

義手処方箋

氏 名			生年 月 日	年齢・性別 性別・年齢	年 月 日 ( ) 歳	性別	男・女
住 所					TEL		
医学的 所 見	疾患名	切断 部位	左 右	職業 (具体的に)			
	障害名	断端長	cm				
種目	肢構造・骨格構造	採型区分	Aー ( )	種目名称別コード			
名 称	1. 上腕義手 2. 肘義手 3. 肘義手 4. 前腕義手 5. 手義手 6. 手型義手 7. 手指義手	型 式 ・ 基 本 価 格	1. 装飾用 2. 作業用 3. 能動式 a. ハンド型手付 b. フック型手付 c. ハンド型長断端用 d. フック型長断端用 e. フック型長断端用	f. ハンド型中端用 g. フック型中端用 h. ハンド型短断端用 i. フック型短断端用 j. フック型短断端用	加 算	1. 肩甲骨関節切断用 2. 吸着式 3. 頸上懸垂式 4. スプリット式 5. チェックソケット a. シリコーン又はライナー b. 透明プラスチック	

【製作要素価格】

ソケット	1. アルミニウム 2. セルロイド 3. 皮革 4. 熱硬化性樹脂 5. 熱可塑性樹脂	イン ソ プ ア ー ト	1. 皮革 2. 軟性発泡樹脂 3. 皮革・軟性発泡樹脂	支 持 部	1. 装飾用能動式 a. 肘部 b. 上腕部 b. 前腕部	(1)アルミニウム、セルロイド (2)熱硬化性樹脂 (1)アルミニウム、セルロイド (2)熱硬化性樹脂
義 手 用 ハ ー ネ ス	1. 肘義手用 2. 上腕義手用 3. 前腕義手用	a. 胸郭バンド式肘ハーネス一式 b. 肘たすき一式 a. 胸郭バンド式上腕ハーネス一式 b. 肘たすき一式 c. 8字ハーネス一式 a. 胸郭バンド式前腕ハーネス一式 b. 8字ハーネス一式 c. 9字ハーネス一式 d. たわみ継手(一組) e. 前方支持バンド f. 上腕カフ(三頭筋パッド)		外 装	1. 肘部 2. 上腕部 3. 前腕部	a. 皮革 b. プラスチック c. 塗装 a. 皮革 b. プラスチック c. 塗装 a. 皮革 b. プラスチック c. 塗装

【完成用部品価格】

完 成 用 部 品			
特記事項、使用者の希望事項など記述すること (借受けの希望 有・無)			
処 方	年 月 日	仮合せ	年 月 日 良・不良
採 型	年 月 日	適合判定	年 月 日

別紙様式例第5号(2) (略)

別紙様式例第5号(3)

## 装具処方箋

氏名			生年月日	昭和・元 昭和・平成 令和		年	月	日 ( )	歳	性別	男・女	
住所							TEL					
医学的 所見	疾患名			患部 部位	左	右	職業 (具体的に)					
	障害名			患部長			cm	種目名称別コード				
区分、名称、基本構造 基本価格												
1	A-											
	(1)股装具	(2)先天性股脱装具 A.リメンビューグル型	(3)内反足装具 A.短下肢装具型	(4)長下肢装具 A.両側支柱	(5)膝装具 A.両側支柱	(6)短下肢装具 A.両側支柱	(7)ツイスター A.軟性					
下 肢 装 具	A.全金属 B.緩性 C.軟性	B.ファンローゼン型 C.パネチア型 D.ローレンツ型 E.ラング型	B.靴型装具型 C.デニスブランク型	B.片側支柱 C.緩性 D. X脚又はO脚	B.緩性 C.スクエーゲン式 D.軟性	B.片側支柱 C.S型支柱 D.鋼線支柱 E.板ばね F.緩性 G.軟性	B.鋼線ケーブル (8)足底装具 A.アーチサポート B.メタタールサポート C.補高 D.内履及び外履					
2	B-											
	A.長靴 B.半長靴(編上靴) C.チャック靴 D.短靴											
靴 型 装 具	3	C-										
		(1)短靴装具 A.全金属 B.緩性 C.軟性 D.カラー <u>D.短靴矯正用靴</u>	(2)胸腰装具 A.全金属 B.緩性 C.軟性	(3)膝腰装具 A.全金属 B.緩性 C.軟性	(4) <u>短靴装具</u> A.全金属 B.緩性 C.軟性 D.骨盤帯	(5)短靴装具 A.ミルウアーキー型 B.前部には及びないもの	安全金属、 <u>緩性</u> 軟性 軟性、骨盤帯					
4	D-											
	(1)肩装具 A.両側支柱 B.緩性 C.軟性 D.分接運動用	(2)肘装具 A.両側支柱 B.緩性 C.軟性	(3)手関節背屈保持装具 A.バネル型 B.トーマス型 C.オットンハイマ型 D.緩性	(4)長対立装具 (5)短対立装具 A.手関節屈曲式 B.ハース駆動式	(6)抱持装具 A.手関節屈曲式 B.ハース駆動式	(7)MP指屈(伸) <u>短靴装具</u> A.バネル型 B.フラスチック C.軟性	(8)指装具 (9)BFO					
上 肢 装 具												

### 【製作要素価格】

<p>1. 下駄装具</p> <p>a. 蹠手</p> <p>(1) 蹠蹠手 (2) 蹠蹠手 (3) 蹠蹠手</p> <p>固定式 遊動式 固定式 遊動式 固定式 遊動式</p> <p>プラスチック蹠手 プラスチック蹠手</p> <p>b. 支持部</p> <p>(1) 大腿支持部 (2) 下腿支持部 (3) 足部</p> <p>A 半月 A 半月 A あふみ</p> <p>B 皮革等 B 皮革等 B 足部</p> <p>1. カフバンド 2. 大腿コルセット 1. カフバンド 2. 下腿コルセット 1. 皮革等(大・小)</p> <p>C モールド C モールド <u>2. モールド(熱可塑性樹脂)</u></p> <p><u>1. 熱硬化性樹脂</u> <u>2. 熱可塑性樹脂</u> <u>1. 熱硬化性樹脂</u> <u>2. 熱可塑性樹脂</u> <u>3. モールド(熱可塑性樹脂)</u></p> <p>(注)</p> <p>C 標準靴</p> <p>・大腿支持部坐骨支持式</p> <p>・下腿支持部(PTB式・PTS式・KBM式)</p> <p>・足板補装</p>	<p>c. その他の加算要素</p> <p>・膝サポーター(支柱付き・支柱なし)</p> <p>・キャリパー</p> <p>・ワイスター(線性・鋼製ケーブル)</p> <p>・デニスマグリン</p> <p>・膝当て</p> <p>・T・Vストリップ</p> <p>・スタビライザー</p> <p>・ターンバックル</p> <p>・ダイヤルロック</p> <p>・伸張・屈曲補助装置</p> <p>・補高足部</p> <p>・足底裏面</p> <p>・高さ調節</p> <p>・内装(大腿部・下腿部・足部)</p> <p>d. 先天股脱装具の加算要素</p> <p>・リマンビュードル</p> <p>・フロンローゼン型</p> <p>・ローレンツ型(モールド・モールドフレーム)</p> <p>・ランゲ型</p>
<p>2. 靴型装具</p> <p>a. 製作要素 牽(グッドイヤー式・マッケイ式)</p> <p>(1) 患側(彫形靴・特殊靴) (2) 健側</p> <p>短靴・チャッカ靴 短靴・チャッカ靴</p> <p>半長靴・長靴 半長靴・長靴</p>	<p>b. 付属品等の加算要素</p> <p>・月型延長</p> <p>・スチールパネリ</p> <p>・トゥボックス補強</p> <p>・鉛板挿入</p> <p>・足背バンド</p> <p>・マジックバンド</p> <p>・補高(飯衣夜式・靴補高)</p> <p>・ヒール補正(トルクヒール・ウェッジヒール等)</p> <p>・足底補正(内側、外側)ソールウェッジ・タンパナー等)</p>

### 装具処方箋

氏 名			生年 月 日	年齢	性 別	男・女
住 所					TEL	
医学的 所 見	疾患名	切断 部位	左 右	職 業 (具体的に)		
	障害名	新端長	cm	種目名称別コード		
区分、名称、基本構造 基本価格						
1  下 肢 装 具	A- (1)股装具	(2)先天性股装具 A. リーメンビューグル型	(3)内反足装具 A. 短下股装具型	(4)長下肢装具 A. 両側支柱	(5)膝装具 A. 両側支柱	(6)短下肢装具 A. 両側支柱
	A. 金属枠	B. フォンローゼン型	B. 靴型器具型	B. 片側支柱	B. 緩性	B. 片側支柱
	B. 緩性	C. バンチエラ型	C. デニスブラウン型	C. 緩性	C. スクウェアデンス	C. S型支柱
	C. 軟性	D. ローレンツ型	D. X脚又はO脚	D. 軟性	D. 鋼線支柱	A. アーチサポート
	E. ラング型				E. 板ばね	B. マスターサルサポート
2  靴 型 装 具	B- (1)長靴	(2)短靴	(3)短靴装具 A. 金属枠	(4)短靴装具 A. 金属枠	(5)短靴型装具 A. ミルウォーキー型	安全金属枠、 <u>短靴</u> 半軟性 半軟性、骨髄帯
	A. 金属枠	B. 緩性	B. 緩性	B. 緩性	B. 緩性	
	C. チャッカ靴	D. 短靴	C. 軟性	C. 軟性	C. 軟性	
			D. カラー	D. 骨髄帯		
			D. <u>斜傾矯正型</u>			
4  上 肢 装 具	D- (1)肩装具	(2)肘装具	(3)手関節背屈保持装具	(4)長対立装具	(5)短対立装具	(6)把持装具
	A. 両側支柱	A. 両側支柱	A. バネ型	A. 手関節離断式	A. 手関節離断式	A. ミルウォーキー型
	A. 金属枠	B. 緩性	B. トーマス型	B. 緩性	B. ハーネス駆動式	B. プラスチック
	B. 緩性	C. 軟性	C. オックスハイマー型	C. 軟性	C. 軟性	
	C. 分岐面酔用		D. 緩性			

### 【製作要素価格】

<p>1. 下肢装具</p> <p>a. 継手</p> <table border="1"> <tr> <th>(1)股継手</th> <th>(2)膝継手</th> <th>(3)足継手</th> </tr> <tr> <td>固定式 遊動式</td> <td>固定式 遊動式 プラスチック継手</td> <td>固定式 遊動式 プラスチック継手</td> </tr> </table>	(1)股継手	(2)膝継手	(3)足継手	固定式 遊動式	固定式 遊動式 プラスチック継手	固定式 遊動式 プラスチック継手	<p>c. その他の加算要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝サポーター（支付き・支なし）</li> <li>・キャリパー</li> <li>・ツイスター（軟性・鋼製ケーブル）</li> <li>・デモストラクン</li> <li>・膝当て</li> <li>・T・Vスラップ</li> <li>・スターライザー</li> <li>・ターンバックル</li> <li>・ダイヤルロック</li> <li>・伸張・屈曲補助装置</li> <li>・補高足部</li> <li>・足底裏側</li> <li>・高さ調節</li> <li>・内張（大腿部・下腿部・足部）</li> </ul>									
(1)股継手	(2)膝継手	(3)足継手														
固定式 遊動式	固定式 遊動式 プラスチック継手	固定式 遊動式 プラスチック継手														
<p>b. 支持部</p> <table border="1"> <tr> <th>(1)大腿支持部</th> <th>(2)下腿支持部</th> <th>(3)足部</th> </tr> <tr> <td>A 半月 B 皮革等</td> <td>A 半月 B 皮革等</td> <td>A あぶみ B 足部</td> </tr> <tr> <td>1.カフバンド 2.大腿コルセット</td> <td>1.カフバンド 2.下腿コルセット</td> <td>1.皮革等（大・小）</td> </tr> <tr> <td>C モールド</td> <td>C モールド</td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>1.カフバンド 2.大腿コルセット</u></td> <td><u>1.カフバンド 2.下腿コルセット</u></td> <td>C 標準靴</td> </tr> </table> <p>（注）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿支持部坐骨支持式</li> <li>・下腿支持部（PTB式・PTS式・KBM式）</li> <li>・足板補強</li> </ul>	(1)大腿支持部	(2)下腿支持部	(3)足部	A 半月 B 皮革等	A 半月 B 皮革等	A あぶみ B 足部	1.カフバンド 2.大腿コルセット	1.カフバンド 2.下腿コルセット	1.皮革等（大・小）	C モールド	C モールド		<u>1.カフバンド 2.大腿コルセット</u>	<u>1.カフバンド 2.下腿コルセット</u>	C 標準靴	<p>d. 先天股関節装具の加算要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーンビューゲル</li> <li>・フロンローゼン型</li> <li>・ローレンツ型（モールド・モールドフリーム）</li> <li>・ランダ型</li> </ul>
(1)大腿支持部	(2)下腿支持部	(3)足部														
A 半月 B 皮革等	A 半月 B 皮革等	A あぶみ B 足部														
1.カフバンド 2.大腿コルセット	1.カフバンド 2.下腿コルセット	1.皮革等（大・小）														
C モールド	C モールド															
<u>1.カフバンド 2.大腿コルセット</u>	<u>1.カフバンド 2.下腿コルセット</u>	C 標準靴														
<p>2. 靴型装具</p> <p>a. 製作要素 奈（グッドイヤー式・マッケイ式）</p> <table border="1"> <tr> <th>(1)患側（整形靴・特殊靴）</th> <th>(2)健側</th> </tr> <tr> <td>短靴・チャッカ靴 半長靴・長靴</td> <td>短靴・チャッカ靴 半長靴・長靴</td> </tr> </table>	(1)患側（整形靴・特殊靴）	(2)健側	短靴・チャッカ靴 半長靴・長靴	短靴・チャッカ靴 半長靴・長靴	<p>b. 付属品等の加算要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月型延長</li> <li>・スチールパネ入り</li> <li>・トゥボックス補強</li> <li>・指板挿入</li> <li>・足背バンド</li> <li>・マジックバンド</li> <li>・補高（敷き皮式・靴補高）</li> <li>・ヒール補正（トルクヒール・ウェッジヒール等）</li> <li>・足底補正（内側、外側ソールウェッジ・タンパーパー等）</li> </ul>											
(1)患側（整形靴・特殊靴）	(2)健側															
短靴・チャッカ靴 半長靴・長靴	短靴・チャッカ靴 半長靴・長靴															

【完成用部品価格】				
完成用部品				
特記事項、使用者の希望事項など記述すること				
(借受けの希望 有・無)				
処 方	年 月 日	仮合せ	年 月 日	良・不良
採 型	年 月 日	適 合 判 定	年 月 日	

別紙様式例第6号~第8号 (略)

【完成用部品価格】					
完成用部品					
特記事項、使用者の希望事項など記述すること					
(借受けの希望 有・無)					
処方		年 月 日	仮合せ		年 月 日 良・不良
採型		年 月 日	適判定		年 月 日

別紙様式例第6号～第8号 (略)

別紙様式例第 9 号

却下決定通知書

文 書 番 号  
令和 年 月 日

〒  
〇市（町・村）  
  
〇〇 〇〇 様

〇〇市（町村）長 印

年 月 日に申請された補装具費の支給申請及び利用者負担額減額・免除等申請については、下記の理由により却下することに決定しましたので通知します。

記

1 申請事項

2 却下の理由

教 示

この処分について不服がある場合は、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内に〇〇市町村長に対して審査請求をすることができます（なお、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内であっても、この処分の日の翌日から起算して1年を経過すると審査請求をすることができなくなります。）。

この処分の取消しを求める訴えは、この処分の通知を受けた日の翌日から起算して6か月以内に限り、〇〇市町村長を被告として（訴訟において市町村を代表する者は市町村長となります。）提起することができます（なお、この処分の通知を受けた日の翌日から起算して6か月以内であっても、この処分の日の翌日から起算して1年を経過するとこの処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）。

また、この処分の通知を受けた日の翌日から起算して3か月以内に審査請求をした場合には、この処分の取消しの訴えは、その審査請求に対する裁決の送達を受けた日の翌日から起算して6か月以内であれば、提起することができます。（なお、その審査請求に対する裁決の送達を受けた日の翌日から起算して6か月以内であっても、その審査請求に対する裁決の翌日から起算して1年を経過するとこの処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）。

別紙様式例第 1 0 号 （略）

別紙様式例第 9 号

却下決定通知書

文 書 番 号  
令和 年 月 日

〒  
〇市（町・村）  
  
〇〇 〇〇 様

〇〇市（町村）長 印

年 月 日に申請された補装具費の支給申請及び利用者負担額減額・免除等申請については、下記の理由により却下することに決定しましたので通知します。

記

1 申請事項

2 却下の理由

教 示

この処分について不服がある場合は、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6.0日以内に〇〇市町村長に対して異議申立てをすることができます。

この処分の取消しを求める訴えは、この処分の通知を受けた日の翌日から起算して6か月以内に限り、〇〇市町村長を被告として（訴訟において市町村を代表する者は市町村長となります。）提起することができます（なお、この処分の通知を受けた日の翌日から起算して6か月以内であっても、この処分の日の翌日から起算して1年を経過するとこの処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）。

また、この処分の通知を受けた日の翌日から起算して6.0日以内に異議申立てをした場合には、この処分の取消しの訴えは、その異議申立てに対する決定の送達を受けた日の翌日から起算して6か月以内であれば、提起することができます。（なお、その異議申立てに対する決定の送達を受けた日の翌日から起算して6か月以内であっても、その異議申立てに対する決定の日の翌日から起算して1年を経過するとこの処分の取消しの訴えを提起することができなくなります。）。

別紙様式例第 1 0 号 （略）

12